

## 《論 説》

## 鬼熊の力石

高島 慎助

## 『はじめに』

全国各地に残る「力石」は、物資の運搬において個人の力が必要だった時代の民俗学的文化遺産である。力のある者は稼ぎも良く、また娯楽の一つとして重い「力石」を担ぐ者は、男の世界では憧憬のまなざしで見られた。すなわち「力」は、経済を支える重要な要因であった。男達は物を担ぐコツを会得するため「力石」に挑んでいた。また相撲の様に「力持番付」も作られていた。

重い石を持ち上げる人を「力持ち」「力持」とか、相撲取りに真似て「力士」とも呼んでいる。これらの者は、地域の行事や娯楽としての力持大会で力を競ったり、寺社の祭礼などの催しの一つとして競演するほか、寺社の建築・補修などを目的とする資金集め「法楽奉納」に協力するなど、いろいろな機会に力量を発揮し、江戸時代後半の健全なる娯楽として人気があった。これらはすべて素人力持であったが、ほかに香具師の手配による見世物興行として小屋掛けし、木戸銭を徴収する職業化した集団もいた。

現在、著者は全国の「力石」調査を行っており、その一部を報告してきた(1~35)。

また力持力士については、「神奈川権次郎」(22)および全国最多の力石に名前を残す「三ノ宮卯之助」(33)を報告してきた。

今回は、やはり力持ちとして有名な鬼熊の力石17個を報告する(表1)。

熊治郎は、四股名を鬼熊と言ひ、江戸川区船堀の出身。幕末の文政・天保の頃から明治初期にかけて活躍した力持ちであったという。神田鎌倉河岸の酒問屋豊島屋本店(干店)(図1)の奉公人であった。

## 『鬼熊の力石』

〔1〕八坂神社(千葉県野田市瀬戸) 〈1個〉

写真1

①「百メ目余 文政九戌年 武州大川戸 森政蔵 同長宮肥田文八 持之 文政十三寅年 武州葛西領浮田 熊治郎 持之」(1826・1830) 66×58×31 cm

## 鬼熊の力石

## 力石

瀬戸には十貫目石、三十六貫目石、百貫目石と三つの力石があった。今は神社にあるが、昔は県道の脇の、現在梨の直売所になっているところにあった。昔、若い男たちがモノビなどの農家の休みのときには、みんなで石のあげっくらをして遊んだ。角の家が昔は二階造りで喫茶店のようになっていたから、石があがるかどうか賭けて、勝つと茶菓代を手に入れ、そこで飲んだり食べたりした。「アシダ（高ん歯の下駄）をはいて百貫目石をころがせば、一日休みが出る。みっころがしころがせば、三日正月出る」とよく言ったものだが、百貫目石は誰もころがすことができなかった。一人もころがしたものはいない。石のあげっくらをやったのは、大正年間くらいまでのことである。後に県道の拡張の際、石は八坂神社に運んだ。十貫目石だけはお寺にあったが、見えなくなってしまった。

野田市史編さん委員会 (36)

- 〔2〕 鶴峰八幡神社（千葉県富津市八幡） 〈1 個〉 写真 2  
 ①「奉納 宝玉石 天保二年□五月吉日 武州葛西浮田熊治郎 是持 当村 伊勢□□セハ人 □治 茂吉 伊之□」(1831) 70×37×20 余 cm
- 〔3〕 善照寺（東京都江戸川区東小松川） 〈2 個〉 写真 3・4  
 ①「尽遊石 卍店 熊治郎 世ハ人 四ツ目 鉄□ 當村若□□」56 余×46×31 cm  
 ②「さし石 卍店 熊治郎 石店 金七」51 余×44×26 cm
- 〔4〕 日枝神社（東京都江戸川区船堀） 〈1 個〉 写真 5  
 ①「奉納 五拾貳貫目 世話人 當所村 卍鬼熊 四つ目 吉五良 願主 司茂定」56 余×50×39 cm
- 〔5〕 稻荷神社（東京都江戸川区北葛西） 〈1 個〉 写真 6  
 ①「えほし 古□□□ 重吉 元□田町 卍本店 金蔵 同 直吉 一七 丑太郎 卍店 与五郎 鬼熊」91×50×36 cm
- 〔6〕 燈明寺（東京都江戸川区平井） 〈1 個〉 写真 7  
 ①「五拾五貫目 卍店 鬼熊 持焉 下平井村 □□」67 余×55×28 cm
- 〔7〕 亀戸天神社（東京都江東区亀戸） 〈2 個〉 写真 8  
 ①「同 卍店 熊治郎扛之 世ハ人 四ツ目 銀五郎 松店 政治郎 当店 三治郎 天保三壬辰三月廿五日 かまくらかし 卍店 金七 サス之 世話人 当所 若者 □ 天保七丙申年三月廿四日 三店甫刻」(1832・1836) 60×32×29 cm
- 〔8〕 富岡元八幡宮（東京都江東区南砂） 〈1 個〉 写真 9  
 ①「昇龍 卍店鬼熊 豆州大島 傳吉持之 世話人 扇橋金兵衛 同音治 四ツ目吉五郎 四十町力藏 本町東助」97×56×42 cm

- 〔9〕幸龍寺（東京都世田谷区北烏山）〈1個〉 写真 10  
 ①「連城石 矢向 弥五郎 伊豆大島傳吉 持之 世話人□ 鬼熊 代地 芳次郎 本町東助」70×52×26 cm
- 〔10〕妙壽寺（東京都世田谷区北烏山）〈1個〉 写真 11  
 ①「干店 熊治郎 持之」66×50×40 cm
- 〔11〕浅草寺（東京都台東区浅草）〈1個〉 写真 12  
 ①「熊遊 干店 熊治郎持之 世話人 新門辰五郎」98×68×24 cm  
 ※熊遊の碑は、新門辰五郎（浅草花川戸の侠客で、幕末、勝海舟の愛顧を受け活躍したことは有名）が世話人となって建てたものである。この碑の台石に刻まれた建立協賛者の多さからも、熊治郎の人柄・力量・指導力がすぐれ、人々に慕われ名声の高かった事が推測出来る。
- 〔12〕鳥越神社（東京都台東区鳥越）〈1個〉 写真 13  
 ①「持之 世話人 大力年寄中 干鬼熊 内田金藏 大口清五郎」65 余×57×37 cm
- 〔13〕瀬戸神社（横浜市金沢区瀬戸）〈1個〉 写真 14  
 ①「奉納 八拾五貫目 江戸 鬼熊 長谷川福太郎 二十七年 持之 三分村室記」104×42×37 cm
- 〔14〕寿福寺（神奈川県川崎市幸区北加瀬）〈1個〉 写真 15  
 ①「嘉永五壬子 干店 弥生中旬 鬼熊 大亀石 川崎平次郎 持之（裏面）當山の檀家に新堀平次郎あり橘樹郡南加瀬字越路に生る若くして非凡の大力あり近隣の有志と計り興行に及び大富を自由自在に動かし観客を動かす当時郷土の力稲毛の力持平次郎と呼ぶ明治十四年四月六日安然として瞑す 昭和四十九年二月吉祥日 當山二十八世実誉光黙記」（1852）110×80×20 cm
- 〔15〕弓弦羽神社（兵庫県神戸市東灘区御影町）〈1個〉 写真 16  
 ①「奉納 豊年石 文久元辛酉秋 御影世話人 平□喜助 □□音吉 江戸鬼熊門人 新川七五郎 大阪荒物屋 松本辰五郎」70×39×27 cm
- 〔16〕八幡神社（香川県観音寺市豊浜町和田浜）〈1個〉 写真 17  
 ①「江戸鬼熊門人 新川七五良 松本辰五良 ウタツ□□□ 十日熊 秋四良」50×45×42 cm ※観音寺市有形民俗文化財

「豊島屋の曲ざし」 豊島屋酒店樽の曲ざしの図（図2）

神田鎌倉河岸なる酒店豊嶋十右衛門に召抱への樽轉（たるころ）と呼べるものあり樽轉は豊嶋屋のみならず酒問屋には何れの店にも召抱のあるものとす去れば新川辺には尤も多し樽轉は酒樽の船積河岸上をなすものにて膂力勝れたる上に樽の扱ひに熟達せしかば四斗樽を扱ふこと恰も鞠の如く當時浅草米倉なる小揚人

## 鬼熊の力石

足の米俵を扱ふ深川木場なる材木商が材木を扱ふ等はいづれも其熟達の茲に及びしかと驚く斗なりける就中豊嶋屋の樽轉等日々店前の河岸より酒樽を揚卸をなすこと数百樽に及ぶに日暮毎に残りし酒樽七八箇を数十人相互に曲持曲指を試むこと常なり其扱ひ此店の特色ありて他店の扱に異るよしなり彼の樽ころ等吾劣らじと種々なる曲をなす其曲また何々と名ありて猥りならずとかや此曲始まるや堀岸なる揚場は人堵をなして賞嘆の声やまざりける。 菊池 (37)

## 「鬼熊」 鬼熊の戯れの図 (図3)

鬼熊は、神田新し橋の彼方、柳原より右に曲がれる横町の角なる居酒屋の主なり。力量衆に勝れしより、名前の上に鬼という文字載せて、鬼熊と呼びなせり。鬼熊は一代にあらずと見えて、店の前横手窓下に大きく丸石に、何百目何代鬼熊指石何年何月と彫り付けたるもの数個ありたり。鬼熊はもと鎌倉河岸酒店豊島屋抱えの樽轉(たるころ)なりしよし安政頃のことなりけるが鬼熊醤油樽壺箇づつを両手に提げ二箇の四斗樽の太繩に足首をかけて下駄となし柳原堤をあゆみしを見るもの空樽なるべしと思ふに左にあらず皆実あるものにて今しも店頭へ酒問屋より車に載て推来りしものと人々いよいよ膽を冷し偕も鬼熊と呼しは道理なりと舌を巻ざるものはなし今日に至る迄柳原辺の話の種に遺りける。 菊池 (37)

※慶応二年の力持番付(図4)に名前がある。

※鬼熊墓(世田谷区北烏山妙壽寺・平成十四年、同寺住職により庫裡前に保存された(写真11))

勇猛院熊力信士 明治十八年八月十三日

## 『謝辞』

本研究は、文部科学省科学研究費補助金の一部による。

## 『参考文献』

- (1) 高島慎助, 播磨の力石, 岩田書院, 2001.
- (2) 高島慎助, 大坂の力石, 岩田書院, 2002.
- (3) 高島慎助, 東京の力石, 岩田書院, 2003.
- (4) 高島慎助, 奈良・和歌山の力石(第二版), 岩田書院, 2003.

- (5) 高島慎助, 京都・滋賀の力石 (第二版), 岩田書院, 2004.
- (6) 高島慎助, 愛知・静岡の力石, 岩田書院, 2004.
- (7) 高島慎助, 岐阜の力石, 岩田書院, 2004.
- (8) 高島慎助, 長野の力石, 岩田書院, 2004.
- (9) 高島慎助, 神奈川の力石, 岩田書院, 2004.
- (10) 高島慎助, 四国の力石, 岩田書院, 2005.
- (11) 高島慎助・酒井正, さいたま市の力石, 岩田書院, 2005.
- (12) 高島慎助, 北海道・東北の力石, 岩田書院, 2005.
- (13) 高島慎助, 千葉の力石, 岩田書院, 2006.
- (14) 高島慎助, 三重の力石 (第二版), 岩田書院, 2006.
- (15) 高島慎助, 埼玉の力石, 岩田書院, 2007.
- (16) 高島慎助, 兵庫の力石, 岩田書院, 2007.
- (17) 高島慎助, 山陽の力石, 岩田書院, 2007.
- (18) 高島慎助・柴田亮俊, 福井県敦賀市の「力石」, 四日市大学論集, Vol.9, No.2, 357~373, 1997.
- (19) 高島慎助・宮崎寛・坂井伸二・青嶋喜良, 富山県小矢部市の「力石 (盤持石)」(1), 四日市大学論集, Vol.10, No.1, 73~91, 1997.
- (20) 高島慎助, 茨城県北相馬郡藤代町の「力石」, 常総の歴史, No.20, 95~102, 1998.
- (21) 高島慎助, 静岡県伊豆半島の「力石」, 四日市大学論集, Vol.10, No.2, 271~287, 1998.
- (22) 高島慎助, 神奈川権次郎の「力石」, 岡山民俗, No.208, 29~35, 1998.
- (23) 高島慎助・藤岳博昭・坂下豊一, 富山県婦負郡の「力石 (盤持石)」, とやま民俗, No.52, 6~12, 1998.
- (24) 高島慎助・宮崎寛・坂井伸二・青嶋喜良, 富山県小矢部市の「力石 (盤持石)」(2), 四日市大学論集, Vol.11, No.1, 43~62, 1998.
- (25) 高島慎助, 富山県東部の「力石」, とやま民俗, No.53, 6~13, 1999.
- (26) 高島慎助・佐伯安一・高西力, 富山県氷見市の「力石 (盤持石)」, とやま民俗, No.54, 9~16, 1999.
- (27) 高島慎助, 福岡県田川郡の「力石」, 郷土田川, No.40, 48~51, 2001.
- (28) 高島慎助, 福岡県の「力石」, 博多研究会誌, No.9, 95~106, 2001.
- (29) 高島慎助, 新潟県南部の「力石」, 高志路, No.343, 11~16, 2002.
- (30) 高島慎助, 新潟県北部の「力石」, 新潟史学, No.49, 44~55, 2002.
- (31) 高島慎助, 新潟県佐渡島の「力石」, 高志路, No.346, 37~41, 2002.
- (32) 高島慎助・尾田武雄, 富山県砺波地方の「力石 (盤持石)」, 北陸石仏の会研究紀要, No.6, 1~12, 2003.
- (33) 高島慎助・高崎力, 三ノ宮卯之助の力石 (2), 四日市大学論集, Vol.17, No.1, 45~76, 2004.
- (34) 高島慎助, 栃木県小山市の力石, 四日市大学論集, Vol.19, No.1, 49~55, 2006.
- (35) 高島慎助, 山梨県の力石, 四日市大学論集, Vol.19, No.2, 53~64, 2007.
- (36) 野田市史編さん委員会, 力石, 野田市史編さん調査報告書第2集・野田市民俗調査報告書2 (三ヶ尾・瀬戸・三ツ堀・木野崎の民俗), 野田市, p 143, 1997.
- (37) 菊池貴市郎, 江戸府内絵本風俗往来 (下編), 博文館, 1905.
- (38) 鈴木菜三・朝倉治彦校註, 江戸名所図絵 (第三版) 全六巻, 角川書店, 1989.

## 鬼熊の力石

表 1. 鬼熊の力石

所在地	個数	刻 字
〔1〕 八坂神社 (千葉県野田市瀬戸)	1	①百メ目余 文政九戌年 武州大川戸 森政蔵 同長宮肥田文八 持之 文政十三寅年 武州葛西領浮田 熊治郎 持之
〔2〕 鶴峰八幡神社 (千葉県富津市八幡)	1	①奉納 宝玉石 天保二年□五月吉日 武州葛西浮田熊治郎 是持 当村 伊勢□□セハ人 □治 茂吉 伊之□
〔3〕 善照寺 (東京都江戸川区東小松川)	2	①尽遊石 卍店 熊治郎 世ハ人 四ツ目鉄□ 當村若□□②さし石 卍店 熊治郎 石店 金七
〔4〕 日枝神社 (東京都江戸川区船堀)	1	①奉納 五拾貳貫目 世話人 當所村 卍鬼熊 四つ目 吉五良 願主 司茂定
〔5〕 稻荷神社 (東京都江戸川区北葛西)	1	①えほし 古□□□ 重吉 元□田町 卍本店 金蔵 同 直吉 一七 丑太郎 卍店 与五郎 鬼熊
〔6〕 燈明寺 (東京都江戸川区平井)	1	①五拾五貫目 卍店 鬼熊 持焉 下平井村 □□
〔7〕 亀戸天神社 (東京都江東区亀戸)	1	①同 卍店 熊治郎扛之 世ハ人 四ツ目銀五郎 松店 政治郎 当店 三治郎 天保三壬辰三月廿五日 かまくらかし 卍店 金七サス之 世話人 当所 若者□ 天保七丙申年三月廿四日 三店甫刻
〔8〕 富岡元八幡宮 (東京都江東区南砂)	1	①昇龍 卍店鬼熊 豆州大島 傳吉持之 世話人 扇橋金兵衛 同音治 四ツ目吉五郎 四十町力藏 本町東助
〔9〕 幸龍寺 (東京都世田谷区北烏山)	1	①連城石 矢向 弥五郎 伊豆大島傳吉 持之 世話人□ 鬼熊 代地 芳次郎 本町東助
〔10〕 妙壽寺 (東京都世田谷区北烏山)	1	①卍店 熊治郎 持之
〔11〕 浅草寺 (東京都台東区浅草)	1	①熊遊 卍店 熊治郎持之 世話人 新門辰五郎
〔12〕 鳥越神社 (東京都台東区鳥越)	1	①持之 世話人 大力年寄中 卍鬼熊 内田金蔵 大口清五郎
〔13〕 瀬戸神社 (横浜市金沢区瀬戸)	1	①奉納 八拾五貫目 江戸 鬼熊 長谷川福太郎 二十七年 持之 三分村室記
〔14〕 寿福寺 (神奈川県川崎市幸区北加瀬)	1	①嘉永五壬子 卍店 弥生中旬 鬼熊 大亀石 川崎平次郎 持之

(裏面) 當山の檀家に新堀平次郎あり橋樹郡南加瀬字越路に生る若くして非凡の大力あり近隣の有志と計り興行に及び大嶺を自由自在に動かし観客を動かす当時郷土の力稲毛の力持平次郎と呼ぶ明治十四年四月六

		日安然として瞑す 昭和四十九年二月吉祥日 當山二十八世実 誉光黙記
[15] 弓弦羽神社 (兵庫県神戸市東灘区御影町)	1	①奉納 豊年石 文久元辛酉秋 御影世話 人 平□喜助 □□音吉 江戸鬼熊門人 新川七五郎 大阪荒物屋 松本辰五郎
[16] 八幡神社 (香川県観音寺市豊浜町和田浜)	1	①江戸鬼熊門人 新川七五良 松本辰五良 ウタツ□□□ 十日熊 秋四良
総 計		17 個

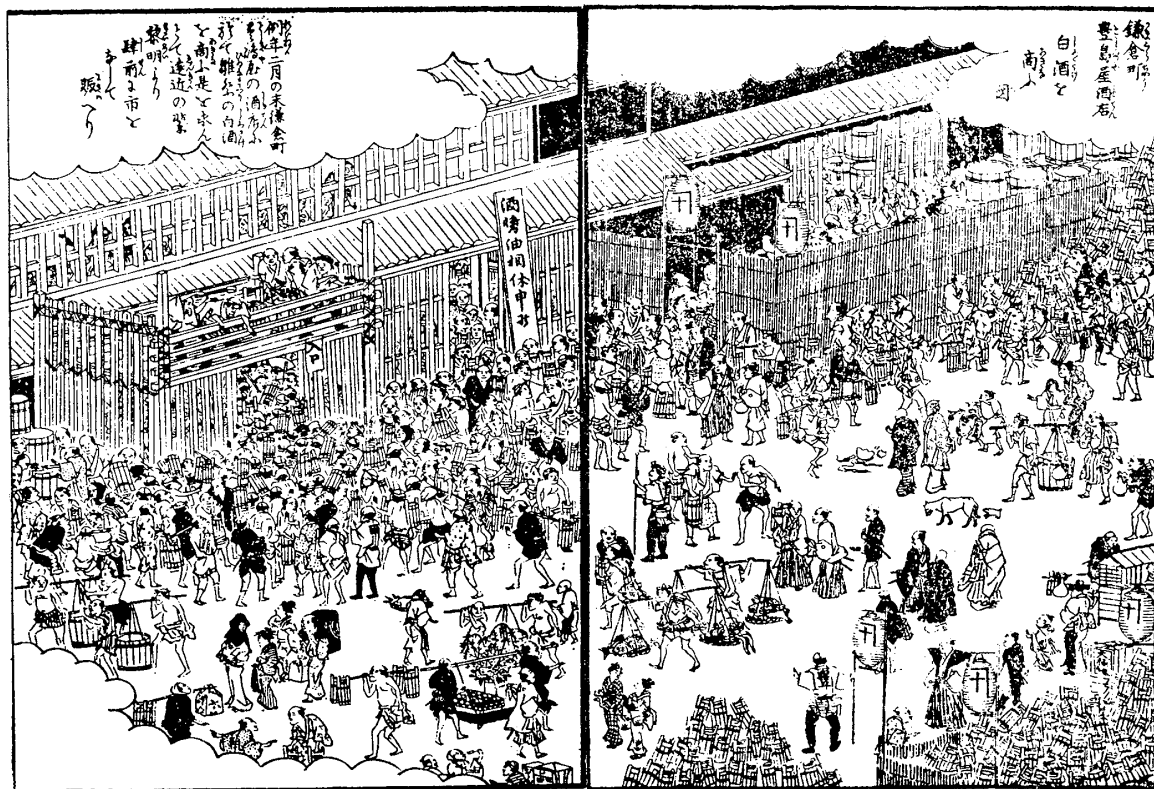


図1 豊島屋酒店 (江戸名所図絵)

鬼熊の力石

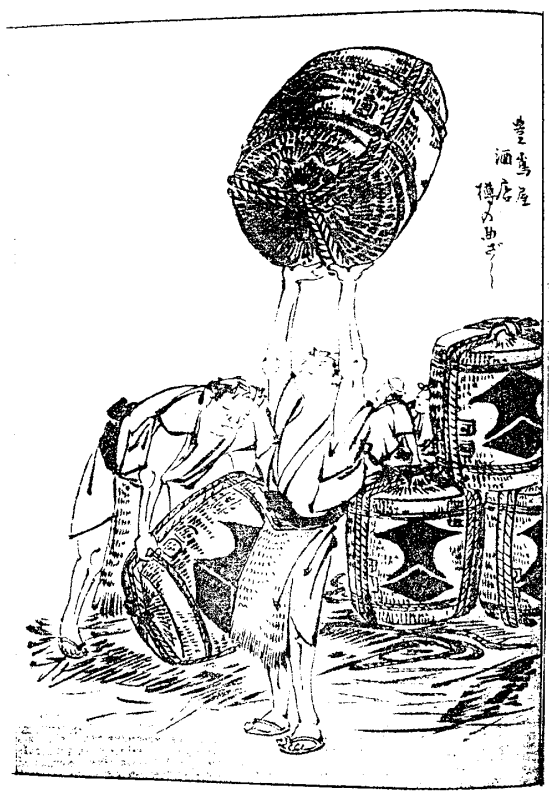


図 2



図 3

**力持番付**

東 前前前前前前前 大 小 関 大

水 清 芋 代 交 新 岩 木 代  
可 次 町 地 川 規 町 地

清 清 芳 彦 与 倉 七 清 東 芳  
治 治 五 治

吉 郎 藏 郎 助 吉 郎 吉 助 郎

寄 年

西 前前前前前前前 大 小 関 大

水 清 芋 代 交 新 岩 木 代  
可 次 町 地 川 規 町 地

清 清 芳 彦 与 倉 七 清 東 芳  
治 治 五 治

吉 郎 藏 郎 助 吉 郎 吉 助 郎

寄 年

戸 江 力持番付

東 前前前前前前前 大 小 関 大

水 清 芋 代 交 新 岩 木 代  
可 次 町 地 川 規 町 地

清 清 芳 彦 与 倉 七 清 東 芳  
治 治 五 治

吉 郎 藏 郎 助 吉 郎 吉 助 郎

寄 年

西 前前前前前前前 大 小 関 大

水 清 芋 代 交 新 岩 木 代  
可 次 町 地 川 規 町 地

清 清 芳 彦 与 倉 七 清 東 芳  
治 治 五 治

吉 郎 藏 郎 助 吉 郎 吉 助 郎

寄 年

図 4 慶応二年の力持番付(流通経済大学蔵)



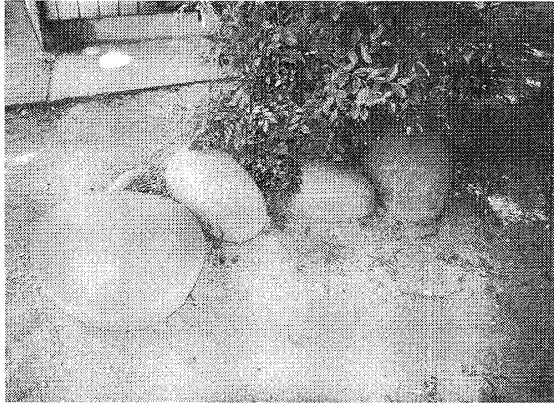


写真 1



写真 2

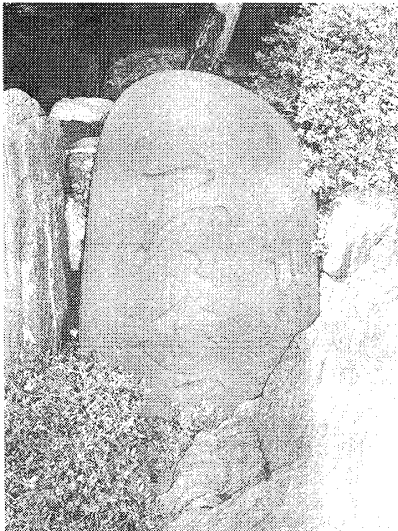


写真 3

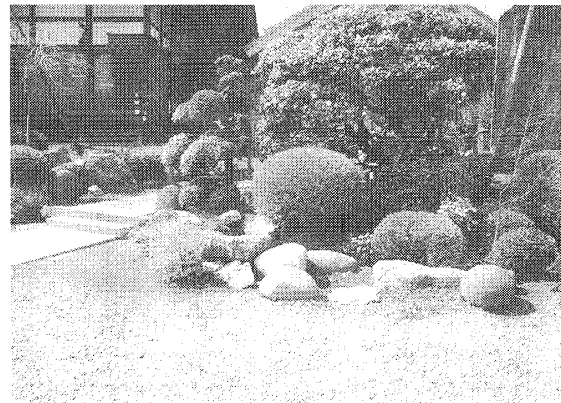


写真 4

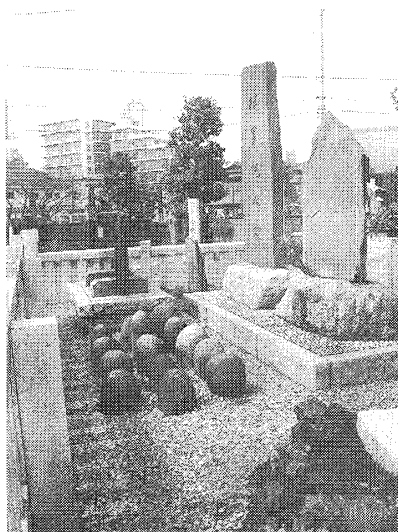


写真 5

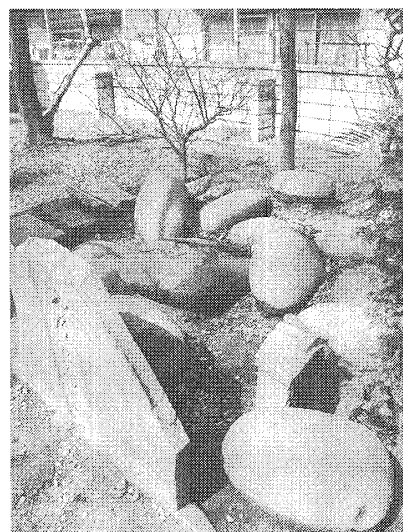


写真 6

鬼熊の力石



写真 7

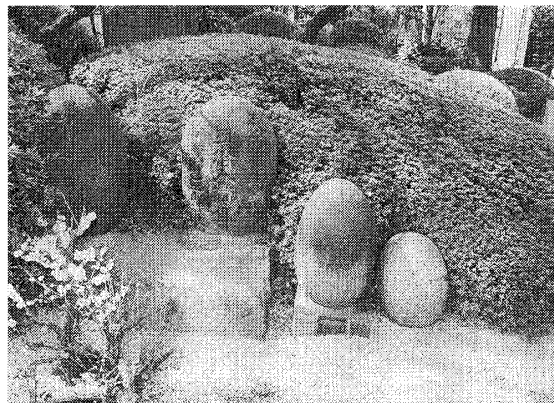


写真 8



写真 9

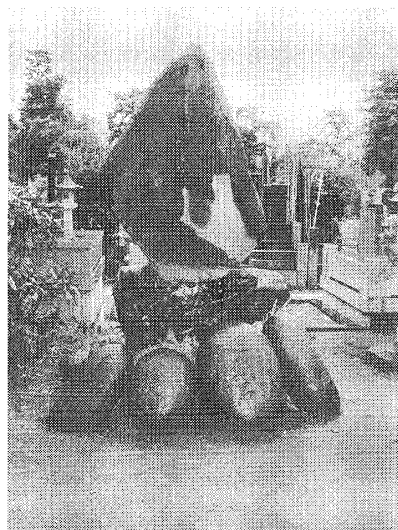


写真 10

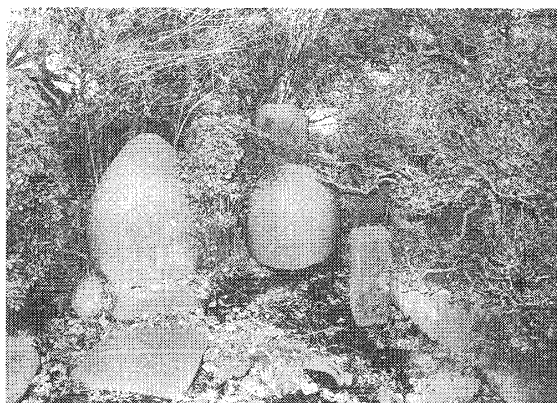


写真 11

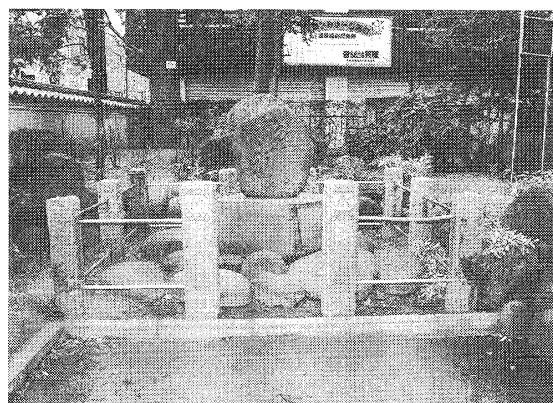


写真 12

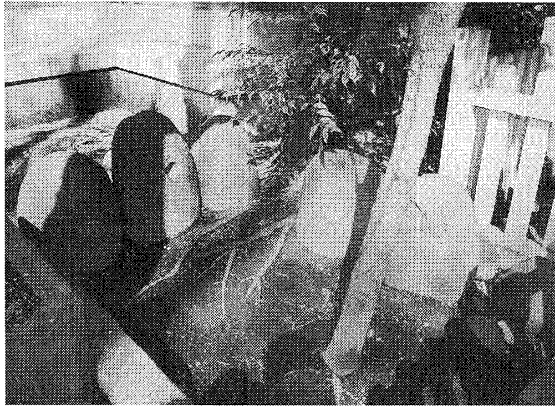


写真13

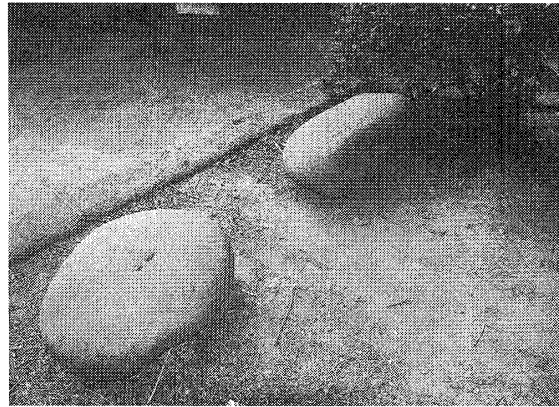


写真14

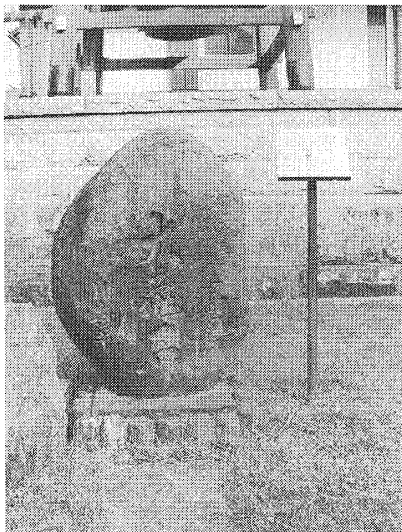


写真15

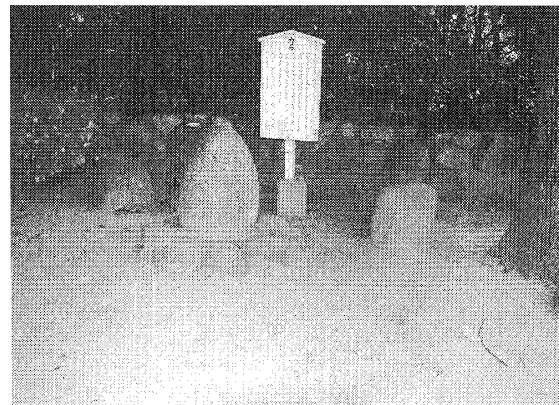


写真16



写真17